

地域医療におけるポリファーマシーを防ぐためには (気仙沼高校・2年4組12番)

1.目的

ポリファーマシーに対して行われている対策を明らかにする。
また、薬が処方される仕組みを把握する。

2.背景

調剤・処方の重複や誤りによる薬物相互作用及び薬物有害事象を防ぐため。
また、高齢化社会において薬剤費の増大を抑制することやQOLの低下を防ぐことは重要であるため。

4.まとめ

- お薬手帳が重要
- 患者と医師、薬剤師の連携が不可欠
- 全国健康保険協会が処方された薬の情報を管理

5.展望

- パンフレットの作成
- お薬手帳を若いうちから習慣化させる案
- 患者、薬剤師が全国健康保険協会に服薬情報を請求できる仕組みを推進する案

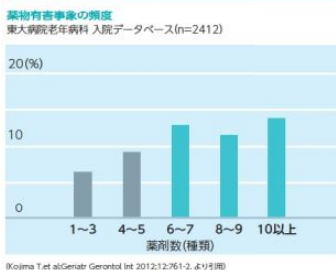
3.調査結果

調査Ⅰ 文献調査

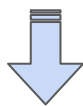


ポリファーマシー：5～6種類以上の薬剤を服用している状態
※3種類や10種類でも有害事象が起こることもある

図1 多剤処方と薬物有害事象のリスク



6錠以上



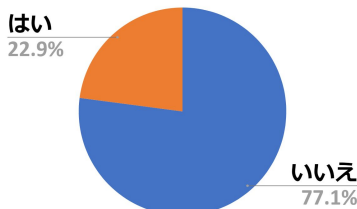
更に

リスク↑↑

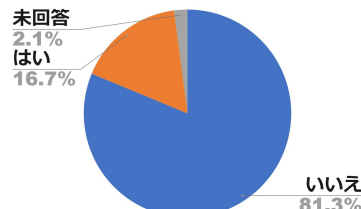
対象：気仙沼高校二年生
回答数：48

調査Ⅲ アンケート

・お薬手帳を常備しているか



・病院でお薬手帳を提示すると10～30円安くなること知っているか



約8割の人はあまり関心が無い



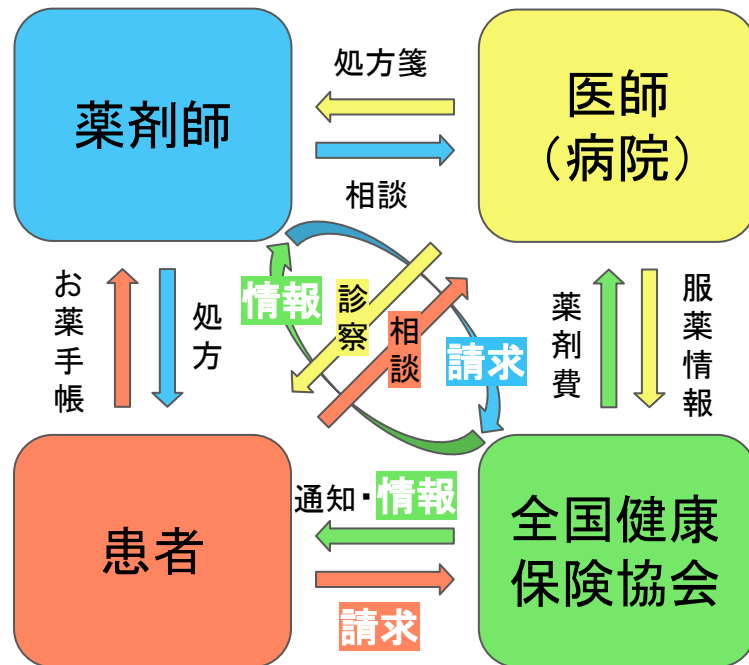
年を重ねていくにつれて困るの可能性



調査Ⅱ 聞き取り調査



宮城県薬剤師会所属 薬剤師 K様



参考文献

- ・超高齢社会におけるかかりつけ医のための適正処方の手引き . 日本医師会 .(2017)
<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11121000-Iyakushokuhinkyoku-Soumuka/0000183066.pdf>
- ・高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015.日本老年医学会 .(2015)
https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/info/topics/pdf/20170808_01.pdf
- ・宮城県薬剤師協会 K様 聞き取り調査

